

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

明日は、二十四節気では「大雪(たいせつ)」、いよいよ本格的な冬到来の時期だ。古来、雪が多く降るのは豊作の前兆であると考えられている。昨年の雪不

足で白馬岳大雪溪登山ルートが閉鎖になったが山岳関係者は「今冬の降雪に期待している」との声が聞かされてくる。雪空に希望を感じ

る地域だからこそ、温暖化への取り組みには積極的な姿勢が求められる。

大系線沿線自治体や関係者でつくる大系線利用促進輸送強化期成同盟会が作成する2025年大系線カレンダーが12月上旬ごろから沿線各市町村で無料配布されるとの情報。

選ばれた作品は、さすが「撮り鉄」の皆さんが作品なのかと魅力が伝わってくる。2月作品の撮影場所が白馬村信濃森上とされているが確かに「信濃森上駅」は存在するが、撮影場所を「信濃森上」とするのが妥当なのかと考えてしまう。

鉄道への関心が高くなり、趣味にしている人を「鉄オタ」と呼び、「乗り鉄」「音鉄」やお目当ての駅で下車して撮影した写真を交流サイトで発信する「降り鉄」など鉄道を取り巻く話題も多くなっている。大系線の利用乗客を増やそうとする取

り組みの一環の事業なら、採用写真の内容が目的達成のためなのか検討すべきではないだろうか。車窓からの作品で大系線に乗車すれば絶景が観賞できると提案し、また沿線地域住民には撮影スポットを造り出そうとする機運を生み出すに違いない。すいた列車ならではの「いろいろな鉄」が創出できるのだろうか。

## 雪空に希望を抱き続ける地域でありたい

一歩は大切にするための

「夢をかなえる・かきくけこ」という言葉がある。「紙に書く」「期限・金額を決める」「口に出す」「計画を立てる」「行動する」だ。大系線の廃線を阻止しようとするならば、小さな活動を継続して大きな力になるとされる「雨垂れ石をうがう」という言葉がある。成し遂げたい結果を実現するための

「雨垂れ石をうがう」という言葉がある。成し遂げたい結果を実現するための一歩は大切にするための



白馬・小谷グループの白嶺ボランティア作業で循環型社会の形成を目的に落ち葉堆肥づくりへの活用を進める

ことができるとの考え方だ。私達を取り巻く情勢はいつも混とんとしているからこそ、感謝の言葉をお口にすることを心掛けるようにしたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)